

#2

S&H Form: (2/01)

Attorney Docket No. 1460.1024

jc872 U.S. PTO  
09/917756  
07/31/01

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Patent Application of:

Ohba SHIRO

Application No.:

Group Art Unit:

Filed: July 31, 2001

Examiner:

For: METHOD OF CODING MOVING IMAGE, METHOD OF DECODING MOVING....

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN  
APPLICATION IN ACCORDANCE  
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. §1.55**

Assistant Commissioner for Patents  
Washington, D.C. 20231

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. §1.55, the applicant(s) submit(s) herewith  
a certified copy of the following foreign application:

Japanese Patent Application No. 2000-340660

Filed: November 8, 2000

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing  
date(s) as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the  
requirements of 35 U.S.C. §119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: July 31, 2001

By: 

J. Randall Beckers  
Registration No. 30,358

700 11th Street, N.W., Ste. 500  
Washington, D.C. 20001  
(202) 434-1501

©2001 Staas & Halsey LLP

BEST AVAILABLE COPY

BEST AVAILABLE COPY

Best Available Copy

日 本 国 特 許 庁

JAPAN PATENT OFFICE

Jc872 U.S. PRO  
09/917756  
07/31/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年11月 8日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-340660

出 願 人

Applicant(s):

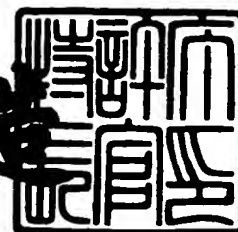
富士通株式会社

CERTIFIED COPY OF  
PRIORITY DOCUMENT

2001年 5月18日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願

【整理番号】 0000956

【提出日】 平成12年11月 8日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 7/00  
H04N 11/00

【発明の名称】 動画像符号化方法、動画像復号化方法、動画像符号化装置、動画像復号化装置、動画像符号化プログラムを記録した記録媒体、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体

【請求項の数】 10

【発明者】  
【住所又は居所】 東京都品川区大崎2丁目8号8番 富士通デバイス株式会社内

【氏名】 大庭 史朗

【特許出願人】  
【識別番号】 000005223  
【氏名又は名称】 富士通株式会社

【代理人】  
【識別番号】 100072718  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 古谷 史旺  
【電話番号】 3343-2901

【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 013354  
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1

【物件名】            要約書    1

【包括委任状番号】   9704947

【ブルーフの要否】    要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 動画像符号化方法、動画像復号化方法、動画像符号化装置、動画像復号化装置、動画像符号化プログラムを記録した記録媒体、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化する動画像符号化方法であって、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画像符号化方法。

【請求項 2】 請求項 1 記載の動画像符号化方法において、

前記動画像データを構成する前記フレーム画像の数は可変であり、

前記シリアルデータ列に前記フレーム画像の数を示すフレーム情報を付加したデータを、符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画像符号化方法。

【請求項 3】 請求項 1 記載の動画像符号化方法において、

前記シリアルデータ列を複数のサブシリアルデータ列に分割し、

前記サブシリアルデータ列を、それぞれ符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画像符号化方法。

【請求項 4】 請求項 1 記載の動画像符号化方法において、

前記フレーム画像の前記画素データは、複数のカラー情報で構成され、

前記シリアルデータ列は、前記カラー情報毎に形成されることを特徴とする動画像符号化方法。

【請求項 5】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを

時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【請求項 6】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化する動画像符号化装置であって、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画像符号化装置。

【請求項 7】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化装置であって、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとし

てそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化装置。

【請求項 8】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化するコンピュータが読み取り可能な動画像符号化プログラムを記録した記録媒体であって、

前記動画像符号化プログラムは、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを取り込んでいき、シリアルデータ列を構成するプログラムと、

前記シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化するプログラムとを含むことを特徴とする動画像符号化プログラムを記録した記録媒体。

【請求項 9】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号するコンピュータが読み取り可能な動画像復号化プログラムを記録した記録媒体であって、

前記動画像復号化プログラムは、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列を構成するプログラムと

前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フ

フレーム画像を前記時系列順に構成するプログラムとを含むことを特徴とする動画像復号化プログラムを記録した記録媒体。

【請求項 1 0】 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化したコンピュータが読み取り可能な動画像符号化データを記録した記録媒体であって、

前記動画像符号化データは、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、さらに該シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化して構成されていることを特徴とする動画像符号化データを記録した記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、動画像符号化方法、動画像復号化方法、動画像符号化装置、動画像復号化装置、動画像符号化プログラムを記録した記録媒体、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体に関する。特に、本発明は、複数のフレーム画像からなる動画像データを高い効率で簡易に符号化・復号化する技術に関する。

【 0 0 0 2】

【従来の技術】

近年、インターネット等のネットワークシステムが、インフラストラクチャとして確立しつつある。このような環境において、映画等のデジタル配信、デジタル放送、テレビ電話、およびテレビ会議システム等が実現されてきている。一般に、デジタルの動画像データを伝送する場合、送信側で動画像を圧縮（符号化）することで、伝送効率を上げている。受信側では、圧縮されたデータを解凍（復号化）し、元の動画像データを得る。

【 0 0 0 3】



以下に、従来より行われているデジタル画像データを符号化・復号化する手法を列記する。下記（１）～（４）は、動画像データだけでなく、静止画像データの符号化にも多用されている。

【 0 0 0 4 】

（１）エントロピー符号化

データの発生頻度に応じて長さの異なる符号（可変長符号）を割り当てる手法。ハフマン符号化、DPCM符号化（Differential Pulse Coded Modulation）、予測符号化等がある。

（２）変換符号化

二次元フーリエ変換により得られた画像の空間周波数成分について、高域周波数成分ほど分散が小さいことを利用して、低い周波数成分には長い符号を割り当て、高い周波数には短い符号を割り当てる手法。

【 0 0 0 5 】

（３）ベクトル量子化

画像の信号波形そのものをベクトルとみなし、画像の相関性からベクトル発生頻度に偏りがあることを利用して符号化効率を上げる手法。

（４）DCT符号化

ブロック画像に対して離散コサイン変換（DCT；Discrete Cosine Transform）をし、高周波成分を削減する手法。JPEG（Joint Photographic image coding Experts Group）、MPEG（Moving Picture coding Experts Group）に用いられている。

【 0 0 0 6 】

（５）背景差分符号化

複数のフレーム画像からなる動画像データにおいて、動きのない背景データを除き、対象物体のデータだけを伝送する手法。

（６）フレーム間符号化

複数のフレーム画像からなる動画像データにおいて、前のフレーム画像との差分を符号化する手法。

【 0 0 0 7 】

(7) 動き補償

フレーム間符号化を発展させ、連続するフレーム間で対象物体の動きを検出し、その動き分だけシフトとした画像をフレーム間予測画像として用いる手法。

【0008】

(8) 認識符号化

ボールゲームの中継のように、背景が一定で選手（対象物体）の動きだけが変化する場合、選手の特徴ベクトル（位置、大きさ、形状、テクスチャ等）を追跡し、対象物体の軌跡を符号化する手法。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】

上記（１）～（４）の手法では、フレーム画像毎に符号化するため、複数のフレーム画像からなる動画データの場合、圧縮効率は低い。上記（５）～（８）の手法では、時系列に並ぶフレーム画像の相関関係を利用し圧縮効率を向上しているが、符号化に必要な情報量が膨大であり、あるいは予め対象物体の認識が必要である。また、動画データの特徴（どの周波数成分がどの程度含まれるか等）によらず、圧縮率は一定である。このため、高周波成分の多いフレーム画像では、画質が劣化し、低周波成分の多いフレーム画像では、圧縮効率が低くなる傾向がある。

【0010】

以下に、各手法における問題点を列記する。

(1) エントロピー符号化

対象データが広範囲でないと十分な圧縮効率が得られない。

(2) 変換符号化

計算量が膨大である。

【0011】

(3) ベクトル量子化

符号化時間が長いため、テレビ電話のようなリアルタイム処理を必要とする符号化には適さない。

(4) DCT符号化

フレーム画像をブロックに分割して計算量を削減しているため、回転などの複雑な動きを含む画像では、ブロック間ノイズが発生する。

【 0 0 1 2 】

(5) 背景差分符号化

対象物体が多数ある場合、対象物体の動きが激しい場合、情報量が増大する。

(6) フレーム間符号化

対象物体が多数ある場合、対象物体の動きが激しい場合、情報量が増大する。

(7) 動き補償

例えば、MPEGでは、Iピクチャ、Bピクチャ、およびPピクチャを並べている。Iピクチャは、前後のフレーム情報と無関係にフレーム画像が再現できる。Bピクチャは、フレーム画像の再現に前後のフレーム情報を必要とする。Pピクチャは、フレーム画像の再現に前のフレーム情報を必要とする。このため、早送り、逆送りをするために複雑な処理が必要になる。符号化・復号化の並列処理は、困難である。

【 0 0 1 3 】

(8) 認識符号化

予め対象物体を認識しなくてはならない。

本発明の目的は、複数のフレーム画像からなる動画像データを高い効率で簡易に符号化・復号化することにある。

本発明の別の目的は、ネットワークの負荷の軽減、通信電波帯域の圧縮、ディジタル動画像データの符号化・復号化する電子機器の負荷の軽減することにある。

【 0 0 1 4 】

本発明の別の目的は、複雑な動きを含む画像においてもブロック間ノイズの発生を防止することにある。

本発明の別の目的は、複数のフレーム画像からなる動画像データの符号化・復号化を高速に実行することにある。

本発明の別の目的は、動画像データの特性に応じて最適な圧縮率で符号化し、符号化に要する処理時間を最適にすることにある。

【 0 0 1 5 】

## 【課題を解決するための手段】

請求項 1 の動画像符号化方法、請求項 6 の動画像符号化装置、請求項 8 の動画像符号化プログラムを記録した記録媒体、および請求項 1 0 の動画像符号化データを記録した記録媒体では、時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データが符号化される。

## 【0 0 1 6】

まず、時系列の最初のフレーム画像から時系列の最後のフレームに向けて、フレーム内の同じ位置の画素データが時系列順に取り込まれる。最後のフレーム画像において、画素データを取り込む位置は、隣接する画素データの位置に移動される。次に、この位置において、最後のフレーム画像から最初のフレーム画像に向けて、反時系列順に画素データが取り込まれる。この後、最初のフレーム画像において、画素データを取り込む位置は、隣接する画素データの位置に移動される。このように、時系列の最初および最後のフレーム画像において、画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら、時系列方向および反時系列方向に交互に、フレームの同じ位置の画素データが取り込まれ、シリアルデータ列が構成される。この後、シリアルデータ列が符号化データに圧縮符号化される。

## 【0.0 1 7】

動画像データにおいては、フレーム内の画素データ間の相関よりも、時系列に並んだフレームにおける画素データ間の相関の方がはるかに強い。このため、同じ位置の画素データを、時系列方向または反時系列方向に沿ってつなげ、動画像データの両端のフレーム画像においては、比較的相関の強い隣接する画素をつなげることで、非常に強い相関関係を保持したシリアルデータ列が構成される。シリアルデータ列における隣接する画素データのデータ値は、強い相関関係を保持しているため、符号化の圧縮効率を高くでき、符号化データのデータ量を小さくできる。

## 【0 0 1 8】

二次元データではなく、シリアルデータを符号化するため、符号化のための計算負荷を軽減できる。フレーム画像を複数のブロックに分割しないため、ブロッ

ク間ノイズは、原理的に発生しない。

この結果、動画像データを符号化する動画像符号化装置の負荷（特に、CPU等の計算機の負荷）を軽減できる。符号化データを伝送する場合には、伝送経路の負荷を軽減できる。無線通信においては、通信電波帯域を圧縮できる。符号化データを記録媒体に記録する場合には、多量の符号化データを記録できる。

【 0 0 1 9 】

これ等符号化処理は、例えば、パーソナルコンピュータ等に動画像符号化プログラムを記録した記録媒体を装着し、動画像符号化プログラムを読み込むことで、パーソナルコンピュータを動画像符号化装置として動作させて行われる。あるいは、デジタルビデオ装置等の動画像符号化装置の場合、動画像符号化プログラムは、装置内のROMに予め書き込まれている。

【 0 0 2 0 】

符号化データは、動画像符号化装置のハードディスク等に記録され、あるいは、DVD (Digital Video Disk) 等に記録される。

請求項 2 の動画像符号化方法では、動画像データを構成するフレーム画像の数は、可変にされている。そして、シリアルデータ列にフレーム画像の数を示すフレーム情報を付加され、このデータが符号化データに圧縮符号化される。符号化処理のパワーまたは処理時間の余裕に応じて、フレーム数を可変にすることで、符号化処理を最適に行うことができる。フレーム数を大きくした場合、動画像データの分割数が小さくなるため、解凍時の画質の低下を最小限にできる。

【 0 0 2 1 】

請求項 3 の動画像符号化方法では、シリアルデータ列は、複数のサブシリアルデータ列に分割される。複数のサブシリアルデータ列が、それぞれ符号化データに圧縮符号化される。このため、符号化の処理単位を小さくでき、符号化処理の負荷を軽減できる。

例えば、複数の符号化データをまとめたデータを、さらに圧縮符号化することで、圧縮率を向上できる。あるいは、複数のサブシリアルデータ列の圧縮符号化を、並列して処理することで、符号化に要する時間を短縮できる。

【 0 0 2 2 】

請求項4の動画像符号化方法では、時系列に並んだ複数のカラーのフレーム画像で構成される動画像データが符号化される。フレーム画像の画素データは、複数のカラー情報で構成されている。シリアルデータ列は、カラー情報毎に形成される。このため、カラーの動画像データの符号化についても、時系列方向の相関の強さを利用して圧縮効率を非常に高くできる。また、あるカラー情報のシリアルデータ列の圧縮率を、別のカラー情報のシリアルデータ列の圧縮率に比べ高くすることで、全体の圧縮率が上がり、符号化データのデータ量を最小限にできる。

#### 【0023】

また、カラー情報毎に形成されたシリアルデータ列を、それぞれ複数のサブシリアルデータ列に分割し、これ等サブシリアルデータ列を、それぞれ符号化データに符号圧縮化してもよい。シリアルデータ列またはサブシリアルデータ列の圧縮符号化を、並列して処理することで、符号化に要する時間を短縮できる。

請求項5の動画像復号化方法、請求項7の動画像復号化装置、および請求項9の動画像復号化プログラムを記録した記録媒体では、上述した動画像符号化方法により生成された符号化データが、元の動画像データに復元される。

#### 【0024】

まず、符号化データが復号化され、シリアルデータ列が構成される。シリアルデータ列は、フレーム画像の数を単位長として折り返して並べられる。次に、時系列の直交方向に沿う画素データが、同一時刻の画素データとしてそれぞれ取り込まれる。取り込んだ画素データは、フレームの所定の位置に配列される。そして、フレーム画像が時系列順に構成され、もとの動画像データが復元される。このように、高い圧縮効率で符号化された符号化データを、容易な方法で元の動画像に復元できる。

#### 【0025】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態を図面を用いて説明する。

図1は、本発明の動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第1の実施形態を示している。この実施形態は

、請求項 1、請求項 6、および請求項 8 に対応している。

【0026】

図において、パーソナルコンピュータ 10 は、電話回線等を介してネットワークに接続されている。パーソナルコンピュータ 10 は、CPU 12 およびこの CPU 12 により制御されるメモリ 14、ハードディスク 16、CD-ROM 装置 18 を有している。

CD-ROM 装置 18 には、動画像符号化プログラムを記録した CD-ROM 20 が装着可能である。パーソナルコンピュータ 10 は、CD-ROM 装置 18 に CD-ROM 20 を装着後、キーボード等（図示せず）を介して入力される指示により、CD-ROM 20 に記録された動画像符号化プログラムをハードディスク 16 にダウンロードする。この操作により、パーソナルコンピュータ 10 は、デジタルビデオカメラ等で撮影した動画像データを圧縮符号化可能になる。すなわち、パーソナルコンピュータ 10 は、動画像符号化装置として機能する。

【0027】

動画像データは、例えば、IEEE1394 インタフェースを介してパーソナルコンピュータ 10 に接続されたデジタルビデオカメラ（図示せず）からハードディスク 16 に転送される。ハードディスク 16 内の動画像データは、後述する手法で圧縮符号化され、符号化データに変換される。符号化されたデータは、ハードディスク 16 に書き込まれる。この後、符号化データは、必要に応じて電話回線等を介して、ネットワークに接続された通信装置 22 に伝送される。

【0028】

図 2 は、本実施形態の圧縮符号化の原理を示している。

動画像データは、時系列順に並んだ N 個のフレーム画像で構成されている。フレーム画像は、画素データをマトリックス状に配列して構成されている。動画像データは、符号化の前にシリアルデータ列に変換される。以下、シリアルデータ列の生成方法について説明する。

【0029】

まず、時刻の最も古いフレーム画像（最初のフレーム画像）から時刻の最も新しいフレーム画像（最後のフレーム画像）に向けて、時系列順にフレーム内の同

じ位置（配列）の画素データが順次取り込まれる。最後のフレーム画像において、画素データを取り込む位置は、隣接する画素データの位置に移動される。

次に、この位置において、最後のフレーム画像から最初のフレーム画像に向けて、反時系列順に画素データが取り込まれる。この後、最初のフレーム画像において、画素データを取り込む位置は、隣接する画素データの位置に移動される。最初のフレーム画像における取り込み位置は、図の最初のフレーム画像上に示した太い実線の矢印に従って順次移動される。最後のフレーム画像における取り込み位置は、最初のフレーム画像上に示した破線の矢印に従って順次移動される。換言すれば、最初および最後のフレーム画像において、画素データを取り込む位置を図の左下から右上に向けてジグザクにずらしながらシリアルデータ列が生成される。

#### 【 0 0 3 0 】

一般に、動画像データにおいては、フレーム内の画素データ間の相関よりも、時系列に並んだフレームにおける画素データ間の相関の方がはるかに強い。本実施形態では、この関係を最大限保持するため、同じ位置の画素データを、時系列方向または反時系列方向に沿ってつなげ、動画像データの両端のフレーム画像においては、比較的相関の強い隣接する画素をつなげている。すなわち、上述したシリアルデータ列は、動画像データにおける非常に強い相関関係を保持して構成されている。

#### 【 0 0 3 1 】

図 3 は、動画像データを符号化データ（圧縮データ）に変換するための処理フローを示している。

動画像データは、図 2 で説明した手順でシリアルデータ列に変換される（図 3（a））。このとき、シリアルデータ列は、フレーム数  $N$  毎に時系列方向を逆にして構成されている。

#### 【 0 0 3 2 】

次に、このシリアルデータ列を、圧縮符号化して、符号化データが生成される（図 3（b））。圧縮符号化では、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われる。これに限らず、可逆圧縮または非可逆圧縮のみを行ってもよい。



シリアルデータ列は、強い相関関係を保持しており、隣接する画素データのデータ値は、互いに近くなるため、エントロピー圧縮効果は、非常に高い。二次元データを扱わないため、符号化のための計算負荷を軽減できる。フレーム画像を複数のブロックに分割しないため、ブロック間ノイズは、原理的に発生しない。

【 0 0 3 3 】

以上、本実施形態では、隣接する画素データ間で強い相関を有するシリアルデータ列を圧縮符号化したので、圧縮効率を非常に高くできる。複数のフレーム画像からなる動画データを上記シリアルデータ列に変換するため、フレーム数Nが大きいほど、エントロピー圧縮の効率を高くできる。この結果、送信データの量を小さくでき、ネットワークの負荷を軽減できる。

【 0 0 3 4 】

DCT符号化と異なり、フレーム画像内における相関（二次元データ）を意識しなくてよいため、符号化のための計算負荷を軽減できる。認識符号化と異なり、予め対象物体を認識する必要がないため、符号化処理を簡潔にできる。したがって、符号化の処理時間を短縮できる。

図4は、本発明の動画データ符号化方法、動画データ符号化装置、および動画データ符号化プログラムを記録した記録媒体の第2の実施形態を示している。この実施形態は、請求項1、請求項2、請求項6、および請求項8に対応している。この実施形態では、動画データ符号化プログラムが第1の実施形態（図1～図3）と相違している。その他の構成は、図1と同一である。

【 0 0 3 5 】

この実施形態では、動画データを構成するフレーム画像のフレーム数が可変にされている。この例では、フレーム数は、時系列順にN1、N2、N3に変化している。フレーム数は、例えば、図1に示したCPU12に対して、圧縮符号化の負荷を大きくできるときに大きくされ、負荷を大きくできないときに小さくされる。換言すれば、フレーム数は、CPU12の計算パワーまたは計算時間に余裕があるときに大きくされる。

【 0 0 3 6 】

動画データは、図2に示した手順でシリアルデータ列に変換される。次に、

このシリアルデータ列にフレーム数を示すフレーム情報が付加され、圧縮符号化が行われる。フレーム数が大きい場合、圧縮効率は向上する。また、フレーム数を大きくすることで、動画像データの分割数が小さくなるため、解凍時の画質の低下は最小限になる。フレーム数が小さくなった場合にも、符号化のアルゴリズムは同一であるため、解凍時の画質を一定に維持できる。

## 【 0 0 3 7 】

この実施形態においても、上述した動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 1 の実施形態と同様の効果を得ることができる。さらに、この実施形態では、動画像データのフレーム数を可変にしたので、解凍時の画質を低下させることなく、CPU 1 2 の負荷状態に応じて動画像データを圧縮符号化できる。

## 【 0 0 3 8 】

図 5 は、本発明の動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 3 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 1、請求項 3、請求項 6、および請求項 8 に対応している。この実施形態では、動画像符号化プログラムが第 1 の実施形態（図 1 ～図 3）と相違している。その他の構成は、図 1 と同一である。

## 【 0 0 3 9 】

この実施形態では、第 1 の実施形態と同様にシリアルデータ列が生成された後、シリアルデータ列は、複数のサブシリアルデータ列に分割される。サブシリアルデータ列は、それぞれ圧縮符号化される。圧縮符号化では、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われる。これに限らず、可逆圧縮または非可逆圧縮のみを行ってもよい。図 1 に示した CPU 1 2 は、サブシリアルデータ列の符号化を順次に処理してもよく、並列処理してもよい。並列処理により、符号化に要する時間が短縮される。サブシリアルデータ列を符号化することで、CPU 1 2 の計算負荷が軽減される。符号化されたデータは、連結された後、さらに圧縮符号化（可逆圧縮）される。

## 【 0 0 4 0 】

この実施形態においても、上述した動画像符号化方法、動画像符号化装置、お

よび動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 1 の実施形態と同様の効果を得ることができる。さらに、この実施形態では、シリアルデータ列をサブシリアルデータ列に分割したので、符号化の処理単位を小さくでき、CPU 1 2 の負荷を軽減できる。

【 0 0 4 1 】

符号化したデータを連結し、さらに符号化するので、圧縮率を向上できる。この結果、送信データの量を小さくでき、ネットワークの負荷をさらに軽減できる。

図 6 は、本発明の動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 4 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 1、請求項 4、請求項 6、および請求項 8 に対応している。この実施形態では、カラーの動画像データが圧縮符号化され、動画像符号化プログラムが第 1 の実施形態（図 1 ～図 3）と相違している。その他の構成は、図 1 と同一である。

【 0 0 4 2 】

カラーの動画像データは、例えば、輝度信号 Y、色差信号 CB、CR で構成されている。この実施形態では、まず、動画像データの画素データが、3 つのカラー情報（輝度信号 Y、色差信号 CB、CR）に分けられる。そして、第 1 の実施形態と同様の手順で、カラー情報毎にシリアルデータ列が生成される。シリアルデータ列は、それぞれ圧縮符号化され、カラー情報毎に符号化データが生成される。圧縮符号化では、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われる。これに限らず、可逆圧縮または非可逆圧縮のみを行ってもよい。図 1 に示した CPU 1 2 は、カラー情報のデータの符号化を順次に処理してもよく、並列処理してもよい。このとき、輝度信号 Y に比べ低周波数成分の多い色差信号 CB、CR のデータの圧縮率を、輝度信号 Y のデータの圧縮率に比べ高くすることで、符号化データのデータ量は最小限にされる。符号化データは、互いに連結され、連結された符号化データが送信される。

【 0 0 4 3 】

この実施形態においても、上述した動画像符号化方法、動画像符号化装置、お

および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 1 の実施形態と同様の効果を得ることができる。さらに、この実施形態では、カラーの動画像データの符号化についても、時系列方向の相関の強さを利用して圧縮効率を非常に高くできる。また、カラー情報毎に圧縮率を変えることで、符号化データの量を最小限にできる。

【 0 0 4 4 】

図 7 は、本発明の動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 5 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 1、請求項 4、請求項 6、および請求項 8 に対応している。この実施形態では、カラーの動画像データが圧縮符号化され、動画像符号化プログラムが第 1 の実施形態（図 1 ～図 3）と相違している。その他の構成は、図 1 と同一である。

【 0 0 4 5 】

この実施形態では、まず、第 4 の実施形態と同様に、3 つのカラー情報（輝度信号 Y、色差信号 CB、CR）に分けられたデータが、カラー情報毎にシリアルデータ列が生成される。シリアルデータ列は、第 3 の実施形態と同様に、複数のサブシリアルデータ列に分割され、圧縮符号化される。圧縮符号化では、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われる。これに限らず、可逆圧縮または非可逆圧縮のみを行ってもよい。サブシリアルデータ列の大きさは、各カラー情報の周波数特性に応じて相違させてもよい。カラー情報毎にサブシリアルデータ列の大きさを変えることで、送信先で圧縮データを解凍したときに、動画像データ（ブロック）の境界での画像の連続性が、確実に保持される。図 1 に示した CPU 1 2 は、サブシリアルデータ列の符号化を順次に処理してもよく、並列処理してもよい。この後、符号化データは、カラー情報毎に連結される。連結されたデータは、さらに一つのデータに連結され、圧縮符号化（可逆圧縮）される。

【 0 0 4 6 】

この実施形態においても、上述した動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 3 および第 5 の実施形態と同様の効果を得ることができる。

図 8 は、本発明の動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 6 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 1、請求項 6、および請求項 8 に対応している。この実施形態では、動画像符号化プログラムが第 1 の実施形態（図 1 ～図 3）と相違している。その他の構成は、図 1 と同一である。

#### 【 0 0 4 7 】

この実施形態では、第 1 の実施形態と同様にシリアルデータ列が生成された後、シリアルデータ列について周波数成分が求められる。そして、中・高周波成分が多い場合（画像の動きが多い場合）、圧縮率が低く設定され、中・高周波成分が標準の場合、圧縮率が標準値に設定され、中・高周波成分が少ない場合（画像の動きが少ない場合）、圧縮率が高く設定される。そして、設定された圧縮率で圧縮符号化（非可逆圧縮）が行われ、符号化データが生成される。このように、周波数成分に応じて圧縮率を変えることで、中・高周波成分が多い場合、送信先で解凍された動画像の画質を向上でき、中・高周波成分が少ない場合、圧縮効率を上げることができる。

#### 【 0 0 4 8 】

この実施形態においても、上述した動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 1 の実施形態と同様の効果を得ることができる。さらに、この実施形態では、シリアルデータ列の周波数成分に応じて、圧縮率を変えることで、復元される動画像の画質および圧縮効率をバランスよく最適化できる。

#### 【 0 0 4 9 】

図 9 は、本発明の動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 5、請求項 7、請求項 9 および請求項 1 0 に対応している。

図において、パーソナルコンピュータ 3 0 は、電話回線等を介してネットワークに接続されている。パーソナルコンピュータ 3 0 は、CPU 3 2 およびこの CPU 3 2 により制御されるメモリ 3 4、ハードディスク 3 6、DVD-ROM 装置 3 8 を有し

ている。DVD-ROM装置 3 8 には、動画像復号化プログラムを記録したCD-ROM 4 0 および映画等の動画像符号化データを記録したDVD-ROM 4 2 が装着可能である。パーソナルコンピュータ 3 0 は、DVD-ROM装置 3 8 にCD-ROM 4 0 を装着後、キーボード等（図示せず）を介して入力される指示により、CD-ROM 4 0 に記録された動画像復号化プログラムをハードディスク 3 6 にダウンロードする。この操作により、パーソナルコンピュータ 3 0 は、DVD-ROM装置 3 8 に装着されるDVD-ROM 4 2 に記録された動画像データの符号化データを再生可能になる。すなわち、パーソナルコンピュータ 3 0 は、動画像復号化装置として機能する。なお、DVD-ROM 4 2 に記録された符号化データは、上述した図 3 に示した手順で圧縮されたデータである。

#### 【 0 0 5 0 】

DVD-ROM 4 2 から読み込まれた符号化データは、メモリ 3 4 に書き込まれ、後述する手法で復号化され、元の動画像データに変換される。復元された動画像データは、順次表示装置（図示せず）に表示される。なお、パーソナルコンピュータ 3 0 は、電話回線等を介して、ネットワークに接続された他のパーソナルコンピュータ等の通信装置 4 4 から符号化データを受信することも可能である。この場合、パーソナルコンピュータ 3 0 は、受信した符号化データをハードディスク 3 6 に書き込む。そして、ハードディスク 3 6 に書き込まれた符号化データが、順次動画像データに復号される。

#### 【 0 0 5 1 】

図 1 0 は、符号化データを復号（解凍）し、元の動画像データを復元するための処理フローを示している。

まず、符号化データは、復号化され、図 3 に示したシリアルデータ列に変換される（図 1 0 （a））。符号化データは、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われ、生成されている。または、符号化データは、可逆圧縮または非可逆圧縮のみが行われ、生成されている。

#### 【 0 0 5 2 】

次に、シリアルデータ列は、後述する手順で並び替えられ、元の動画像データが復元される（図 1 0 （b））。

図11は、復号化されたシリアルデータ列を元の動画像データに変換する原理を示している。

まず、シリアルデータ列は、元の動画像データのフレーム画像の数 $N$ （フレーム数 $N$ ）を単位長として折り返して並べられる（図11（a））。このとき、並べられた画素データは、図の下側に向けて時系列順に配列されている。すなわち、時系列の直交方向（図の横方向）に沿う画素データは、それぞれ所定の時刻のフレーム画像の画素データである。

【0053】

次に、図の横方向に沿う画素データが、集合 $f_i[k]$ として取り込まれる（図11（b））。ここで、 $i$ は、フレーム画像の時系列番号（ $0 \sim N-1$ ）を示し、 $k$ は、一つのフレーム画像内の位置（ $0 \sim m \cdot m - 1$ ）を示している。

集合 $f_i[k]$ の画素データは、フレーム内において図の左下から右上に向けて矢印の順にジグザグに配置され、 $m \times m$ の画素データの配列である元のフレーム画像が復元される（図11（c））。これを繰り返すことで、元の動画像データが復元される。

【0054】

式（1）、（2）は、配列 $a[j]$ （ $j = 0 \sim m \cdot m \cdot N - 1$ ）に構成されたシリアルデータ列から、 $i$ 番目のフレーム画像の画素データを取り出すための式を示している。式（1）は、時系列順に並んだシリアルデータ列に対応し、式（2）は、反時系列順に並んだシリアルデータ列に対応している。

$$f_i(2n) = a[i + 2N \cdot n] \quad \dots\dots (1)$$

$$f_i(2n+1) = a[i + 2N(n+1) - (2i+1)] \quad \dots\dots (2)$$

但し、 $n$ は、 $0, 1, \dots, (m \cdot m - 2) / 2$ であり、 $m$ は、フレーム画像の一辺の画素数を示す。

【0055】

式（1）、（2）より、 $i$ 番目（ $i = 0 \sim N-1$ ）のフレーム画像の配列 $a[j]$ は、それぞれ次のように示される。

$$f_i(0) = a[i]$$

$$f_i(1) = a[2N - (i + 1)]$$

$$f_i(2) = a[2N + i]$$

$$f_i(3) = a[4N - (i + 1)]$$

:

$$f_i(m \cdot m - 1) = a[N \cdot m \cdot m - (i + 1)]$$

上式より、例えば、フレーム数 $N$ を5、フレーム画像の一辺の画素数 $m$ を10としたとき、0番目のフレーム画像（最初のフレーム画像）は、シリアルデータ列の0, 9, 10, 19, 21, . . . , 499番目の画素データを取り出すことで構成される。

## 【0056】

以上、本実施形態では、高い圧縮効率で符号化された符号化データを、容易な方法で元の動画像に復元できる。

図12は、本発明の動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第2の実施形態を示している。この実施形態は、請求項5、請求項7、請求項9および請求項10に対応している。この実施形態では、動画像復号化プログラムが第1の実施形態（図9）と相違している。その他の構成は、図9と同一である。

## 【0057】

この実施形態では、DVD-ROM42に記録された符号化データは、図4に示した手順で圧縮されたデータである。

符号化データは、復号化され、フレーム情報とシリアルデータ列とが生成される。符号化データは、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われ、生成されている。または、符号化データは、可逆圧縮または非可逆圧縮のみが行われ、生成されている。

## 【0058】

シリアルデータ列は、フレーム情報により示される元の動画像データのフレーム画像の数 $N$ を単位長として折り返して並べられる。この後、上述した式（1）、（2）に従い、シリアルデータ列から動画像データのフレーム画像が構成され、復号化処理が完了する。

この実施形態においても、上述した動画像復号化方法、動画像復号化装置、動



画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態（図 9 ～図 1 1）と同様の効果を得ることができる。

#### 【 0 0 5 9 】

図 1 3 は、本発明の動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 3 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 5、請求項 7、請求項 9 および請求項 1 0 に対応している。この実施形態では、動画像復号化プログラムが第 1 の実施形態（図 9）と相違している。その他の構成は、図 9 と同一である。

#### 【 0 0 6 0 】

この実施形態では、DVD-ROM 4 2 に記録された符号化データは、図 5 に示した手順で圧縮されたデータである。

符号化データ（可逆圧縮されたデータ）は、復号化され、連結された符号化データに変換される。各符号化データは、さらに復号化され、サブシリアルデータ列に変換される。符号化データは、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われ、生成されている。または、符号化データは、可逆圧縮または非可逆圧縮のみが行われ、生成されている。

#### 【 0 0 6 1 】

このとき、図 9 に示した CPU 3 2 は、サブシリアルデータ列への復号化を順次に処理してもよく、並列処理してもよい。サブシリアルデータ列を連結することでシリアルデータ列が構成される。シリアルデータ列は、元の動画像データのフレーム画像の数  $N$  を単位長として折り返して並べられる。この後、上述した式（1）、（2）に従い、シリアルデータ列から動画像データのフレーム画像が構成され、復号化処理が完了する。

#### 【 0 0 6 2 】

この実施形態においても、上述した動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態（図 9 ～図 1 1）と同様の効果を得ることができる。

図 1 4 は、本発明の動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 3 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 5、請求項 7、請求項 9 および請求項 1 0 に対応している。この実施形態では、動画像復号化プログラムが第 1 の実施形態（図 9）と相違している。その他の構成は、図 9 と同一である。

【 0 0 6 3 】

この実施形態では、DVD-ROM 4 2 に記録された符号化データは、図 6 に示した手順で圧縮されたデータである。すなわち、カラーの動画像データが復号される。

連結された符号化データは、3 つのカラー情報（輝度信号 Y、色差信号 CB、CR）の符号化データに分けられる。符号化データは、それぞれ復号化され、シリアルデータ列に変換される。符号化データは、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われ、生成されている。または、符号化データは、可逆圧縮または非可逆圧縮のみが行われ、生成されている。

【 0 0 6 4 】

このとき、図 9 に示した CPU 3 2 は、カラー情報のデータの復号化を順次に処理してもよく、並列処理してもよい。シリアルデータ列は、それぞれ元の動画像データのフレーム画像の数 N を単位長として折り返して並べられる。この後、上述した式（1）、（2）に従い、それぞれシリアルデータ列からカラー情報が構成され、これ等カラー情報をまとめることで、動画像データのフレーム画像が構成され、復号化処理が完了する。

【 0 0 6 5 】

この実施形態においても、上述した動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態（図 9 ～図 1 1）と同様の効果を得ることができる。

図 1 5 は、本発明の動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 4 の実施形態を示している。この実施形態は、請求項 5、請求項 7、請求項 9 お

よび請求項 1 0 に対応している。この実施形態では、動画像復号化プログラムが第 1 の実施形態（図 9）と相違している。その他の構成は、図 9 と同一である。

【 0 0 6 6 】

この実施形態では、DVD-ROM 4 2 に記録された符号化データは、図 7 に示した手順で圧縮されたカラー情報を含むデータである。

まず、符号化データ（可逆圧縮されたデータ）は、復号化され、3 つのカラー情報に対応する符号化データが連結されたデータに変換される。各符号化データは、さらに、サブシリアルデータ列に対応する符号化データに分けられる。符号化データは、複合化され、3 つのカラー情報に対応して、それぞれサブシリアルデータ列に変換される。符号化データは、例えば、非可逆圧縮の後、可逆圧縮が行われ、生成されている。または、符号化データは、可逆圧縮または非可逆圧縮のみが行われ、生成されている。

【 0 0 6 7 】

このとき、図 9 に示した CPU 3 2 は、サブシリアルデータ列への復号化を順次に処理してもよく、並列処理してもよい。

次に、カラー情報毎に、サブシリアルデータ列を連結することでシリアルデータ列が構成される。シリアルデータ列は、元の動画像データのフレーム画像の数 N を単位長として折り返して並べられる。この後、上述した式（1）、（2）に従い、それぞれシリアルデータ列からカラー情報が構成され、これ等カラー情報をまとめることで、動画像データのフレーム画像が構成され、復号化処理が完了する。

【 0 0 6 8 】

この実施形態においても、上述した動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態（図 9 ～図 1 1）と同様の効果を得ることができる。

なお、上述した第 2 の実施形態（図 4、図 1 2）では、本発明をパーソナルコンピュータ等の動画像符号化装置に適用した例について述べた。本発明はかかる実施形態に限定されるものではない。例えば、本発明をテレビ電話またはテレビ

会議システム等の動画像符号化装置に適用してもよい。この場合、通信回線の状況に応じてフレーム数を可変にできる。

#### 【 0 0 6 9 】

上述した第 3 の実施形態（図 5）では、サブシリアルデータ列の符号化を CPU 1 2 により並列処理した例について述べた。本発明はかかる実施形態に限定されるものではない。例えば、パーソナルコンピュータ 1 0 に複数の CPU または複数のデータ処理プロセッサを搭載し、これ等複数の処理エンジンにより並列処理してもよい。他の実施形態の並列処理についても同様である。

#### 【 0 0 7 0 】

上述した第 4 の実施形態（図 6、図 1 4）では、輝度信号 Y、色差信号 CB、CR で構成されたカラーの動画像データを符号化処理・復号化処理した例について述べた。本発明はかかる実施形態に限定されるものではない。例えば、R、G、B の 3 原色で構成されたカラーの動画像データを符号化処理・復号化処理してもよい。

#### 【 0 0 7 1 】

上述した実施形態では、本発明をパーソナルコンピュータに適用した例について述べた。本発明はかかる実施形態に限定されるものではない。例えば、本発明をデジタルビデオ、デジタルビデオデッキ、DVD 装置、ナビゲーションシステム、センサー・簡易レーダによる身障者誘導システム、あるいは動画機能を有するデジタルカメラ、携帯電話、携帯端末等に適用してもよい。

#### 【 0 0 7 2 】

以上の実施形態において説明した発明を整理して、付記として開示する。

（付記 1） 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化する動画像符号化方法であって、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画

像符号化方法。

【 0 0 7 3 】

(付記 2) 付記 1 記載の動画像符号化方法において、  
前記動画像データを構成する前記フレーム画像の数は可変であり、  
前記シリアルデータ列に前記フレーム画像の数を示すフレーム情報を付加した  
データを、符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画像符号化方法。

(付記 3) 付 1 記載の動画像符号化方法において、  
前記シリアルデータ列を複数のサブシリアルデータ列に分割し、  
前記サブシリアルデータ列を、それぞれ符号化データに圧縮符号化することを  
特徴とする動画像符号化方法。

【 0 0 7 4 】

(付記 4) 付記 3 記載の動画像符号化方法において、  
複数の前記符号化データをまとめたデータを、さらに圧縮符号化することを特  
徴とする動画像符号化方法。

【 0 0 7 5 】

(付記 5) 付記 3 記載の動画像符号化方法において、  
前記サブシリアルデータ列の圧縮符号化は、並列処理されることを特徴とする  
動画像符号化方法。

(付記 6) 付記 1 記載の動画像符号化方法において、  
前記フレーム画像の前記画素データは、複数のカラー情報で構成され、  
前記シリアルデータ列は、前記カラー情報毎に形成されることを特徴とする動  
画像符号化方法。

【 0 0 7 6 】

(付記 7) 付記 6 記載の動画像符号化方法において、  
前記カラー情報毎に形成された前記シリアルデータ列を、それぞれ複数のサブ  
シリアルデータ列に分割し、  
前記サブシリアルデータ列を、それぞれ符号化データに符号圧縮化することを  
特徴とする動画像符号化方法。

【 0 0 7 7 】

(付記 8) 付記 6 記載の動画像符号化方法において、  
前記シリアルデータ列の圧縮符号化は、並列処理されることを特徴とする動画像符号化方法。

(付記 9) 付記 1 記載の動画像符号化方法において、  
前記シリアルデータ列について、周波数成分を求め、  
高周波成分が多いときに、前記シリアルデータ列の圧縮率を下げ、  
高周波成分が少ないときに、前記シリアルデータ列の圧縮率を上げることを特徴とする動画像符号化方法。

【 0 0 7 8 】

(付記 1 0) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列を構成し、  
前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【 0 0 7 9 】

(付記 1 1) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリ

アルデータ列に前記フレーム画像の数を示すフレーム数情報を付加したデータを圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列および前記フレーム数情報を構成し、

前記シリアルデータ列を、前記フレーム数情報を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【 0 0 8 0 】

(付記 1.2) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を複数のサブシリアルデータ列に分割し、前記サブシリアルデータ列をそれぞれ圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

複数の前記符号化データをそれぞれ復号して、複数の前記サブシリアルデータ列を構成し、

前記各サブシリアルデータ列をまとめて、前記シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【 0 0 8 1 】

（付記 1 3） 付記 1 2 記載の動画像復号化方法において、  
前記符号化データの復号化は、並列処理されることを特徴とする動画像復号化方法。

（付記 1 4） 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を複数のサブシリアルデータ列に分割し、前記サブシリアルデータ列をそれぞれ圧縮符号化して複数の符号化データを構成し、該符号化データをまとめたデータをさらに圧縮符号化した総符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

前記総符号化データを復号して複数の前記符号化データを形成し、

複数の前記符号化データをそれぞれ復号して、複数の前記サブシリアルデータ列を構成し、

前記各サブシリアルデータ列をまとめて、前記シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【 0 0 8 2 】

（付記 1 5） 複数のカラー情報で構成された画素データを有する時系列に並んだ複数のフレーム画像からなる動画像データを、前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記カラー情報毎に、前記カラー情報を取り込む位置を隣接するカラー情報の位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置のカラー情報を時系列順



および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列をそれぞれ構成し、該シリアルデータ列をそれぞれ圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

複数の前記符号化データをそれぞれ復号して、前記カラー情報毎に前記シリアルデータ列を形成し、

前記各シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記カラー情報を、同一時刻の該カラー情報としてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記カラー情報をフレームの所定の位置に配列することで、前記カラー情報毎に前記カラーフレーム画像を前記時系列順に構成し、

前記カラーフレーム画像を前記同一時刻毎にまとめて、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【 0 0 8 3 】

(付記 1 6) 付記 5 記載の動画像復号化方法において、

前記符号化データの復号化は、並列処理されることを特徴とする動画像復号化方法。

(付記 1 7) 複数のカラー情報で構成された画素データを有する時系列に並んだ複数のフレーム画像からなる動画像データを、前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記カラー情報毎に、前記カラー情報を取り込む位置を隣接するカラー情報の位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置のカラー情報を時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列をそれぞれ構成し、該シリアルデータ列を複数のサブシリアルデータ列に分割し、前記サブシリアルデータ列をそれぞれ圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化方法であって、

前記符号化データをそれぞれ復号して、複数の前記サブシリアルデータ列をそれぞれ形成し、

前記各サブシリアルデータ列を前記カラー情報毎にまとめて、前記シリアルデ

ータ列を構成し、

前記各シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記カラー情報を、同一時刻の該カラー情報としてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記カラー情報をフレームの所定の位置に配列することで、前記カラー情報毎に前記カラーフレーム画像を前記時系列順に構成し、

前記カラーフレーム画像を前記同一時刻毎にまとめて、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化方法。

【 0 0 8 4 】

(付記 1 8) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化する動画像符号化装置であって、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化することを特徴とする動画像符号化装置。

【 0 0 8 5 】

(付記 1 9) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号する動画像復号化装置であって、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列を構成し、

前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成することを特徴とする動画像復号化装置。

【 0 0 8 6 】

(付記 2 0) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化するコンピュータが読み取り可能な動画像符号化プログラムを記録した記録媒体であって、

前記動画像符号化プログラムは、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを取り込んでいき、シリアルデータ列を構成するプログラムと、

前記シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化するプログラムとを含むことを特徴とする動画像符号化プログラムを記録した記録媒体。

【 0 0 8 7 】

(付記 2 1) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを、時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、該シリアルデータ列を圧縮符号化した符号化データを、元の動画像データに復号するコンピュータが読み取り可能な動画像復号化プログラムを記録した記録媒体であって、

前記動画像復号化プログラムは、

前記符号化データを復号して、前記シリアルデータ列を構成するプログラムと

、  
前記シリアルデータ列を、前記フレーム画像の数を単位長として折り返して並べ、

前記時系列の直交方向に沿う前記画素データを、同一時刻の該画素データとしてそれぞれ取り込み、

取り込んだ前記画素データをフレームの所定の位置に配列することで、前記フレーム画像を前記時系列順に構成するプログラムとを含むことを特徴とする動画像復号化プログラムを記録した記録媒体。

【 0 0 8 8 】

(付記 2 2) 時系列に並んだ複数のフレーム画像で構成される動画像データを符号化したコンピュータが読み取り可能な動画像符号化データを記録した記録媒体であって、

前記動画像符号化データは、

前記時系列の最初および最後の前記フレーム画像において、前記画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、前記フレーム画像における同じ位置の画素データを取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、さらに該シリアルデータ列を符号化データに圧縮符号化して構成されていることを特徴とする動画像符号化データを記録した記録媒体。

【 0 0 8 9 】

付記 9 の動画像符号化方法では、シリアルデータ列について、周波数成分が求められる。そして、高周波成分が多いときに、シリアルデータ列の圧縮率が下げられる。高周波成分が少ないときに、シリアルデータ列の圧縮率が上げられる。シリアルデータ列の周波数成分に応じて、圧縮率を変えることで、復元される動画像の画質および圧縮効率をバランスよく最適化できる。

【 0 0 9 0 】

以上、本発明について詳細に説明してきたが、上記の実施形態およびその変形例は発明の一例に過ぎず、本発明はこれに限定されるものではない。本発明を逸脱しない範囲で変形可能であることは明らかである。

【 0 0 9 1 】

【発明の効果】

請求項 1 の動画像符号化方法、請求項 6 の動画像符号化装置、請求項 8 の動画

像符号化プログラムを記録した記録媒体、および請求項 1 0 の動画像符号化データを記録した記録媒体では、データの圧縮効率を高くでき、符号化データのデータ量を小さくできる。二次元データではなく、シリアルデータを符号化するため、符号化のための計算負荷を軽減できる。フレーム画像を複数のブロックに分割しないため、ブロック間ノイズは、原理的に発生しない。動画像データを符号化する動画像符号化装置の負荷を軽減できる。符号化データを伝送する場合には、伝送経路の負荷を軽減できる。無線通信においては、通信電波帯域を圧縮できる。符号化データを記録媒体に記録する場合には、多量の符号化データを記録できる。

#### 【 0 0 9 2 】

請求項 2 の動画像符号化方法では、符号化処理のパワーまたは処理時間の余裕に応じて、フレーム数を可変にすることで、符号化処理を最適に行うことができる。フレーム数を大きくした場合、動画像データの分割数が小さくなるため、解凍時の画質の低下を最小限にできる。

請求項 3 の動画像符号化方法では、符号化の処理単位を小さくでき、符号化処理の負荷を軽減できる。

#### 【 0 0 9 3 】

請求項 4 の動画像符号化方法では、カラーの動画像データの符号化についても、時系列方向の相関の強さを利用して圧縮効率を非常に高くできる。例えば、あるカラー情報のシリアルデータ列の圧縮率を、別のカラー情報のシリアルデータ列の圧縮率に比べ高くすることで、全体の圧縮率が上がり、符号化データのデータ量を最小限にできる。

#### 【 0 0 9 4 】

請求項 5 の動画像復号化方法、請求項 7 の動画像復号化装置、および請求項 9 の動画像復号化プログラムを記録した記録媒体では、高い圧縮効率で符号化された符号化データを、容易な方法で元の動画像に復元できる。

#### 【図面の簡単な説明】

#### 【図 1】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録

した記録媒体の第 1 の実施形態を示す説明図である。

【図 2】

図 1 の圧縮符号化の原理を示す説明図である。

【図 3】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 1 の実施形態における動画像データを符号化データに変換するための処理フローである。

【図 4】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 2 の実施形態を示す説明図である。

【図 5】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 3 の実施形態を示す説明図である。

【図 6】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 4 の実施形態を示す説明図である。

【図 7】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 5 の実施形態を示す説明図である。

【図 8】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の第 6 の実施形態を示す説明図である。

【図 9】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態を示す説明図である。

【図 1 0】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態におけ

る符号化の処理フローである。

【図 1 1】

図 1 0 におけるシリアルデータ列を元の動画像データに変換する原理を示す説明図である。

【図 1 2】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 2 の実施形態を示す説明図である。

【図 1 3】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 3 の実施形態を示す説明図である。

【図 1 4】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 4 の実施形態を示す説明図である。

【図 1 5】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 5 の実施形態を示す説明図である。

【符号の説明】

- 1 0 パーソナルコンピュータ
- 1 2 CPU
- 1 4 メモリ
- 1 6 ハードディスク
- 1 8 CD-ROM装置
- 2 0 CD-ROM
- 2 2 通信装置
- 3 0 パーソナルコンピュータ

- 3 2 CPU
- 3 4 メモリ
- 3 6 ハードディスク
- 3 8 DVD-ROM装置
- 4 0 CD-ROM
- 4 2 DVD-ROM
- 4 4 通信装置

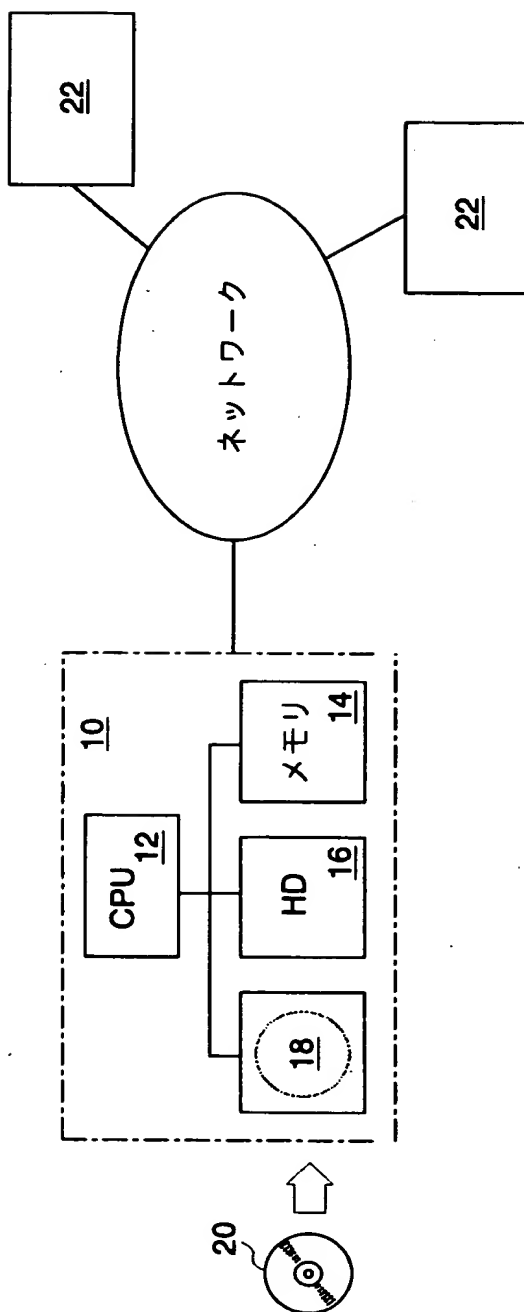


【書類名】

図面

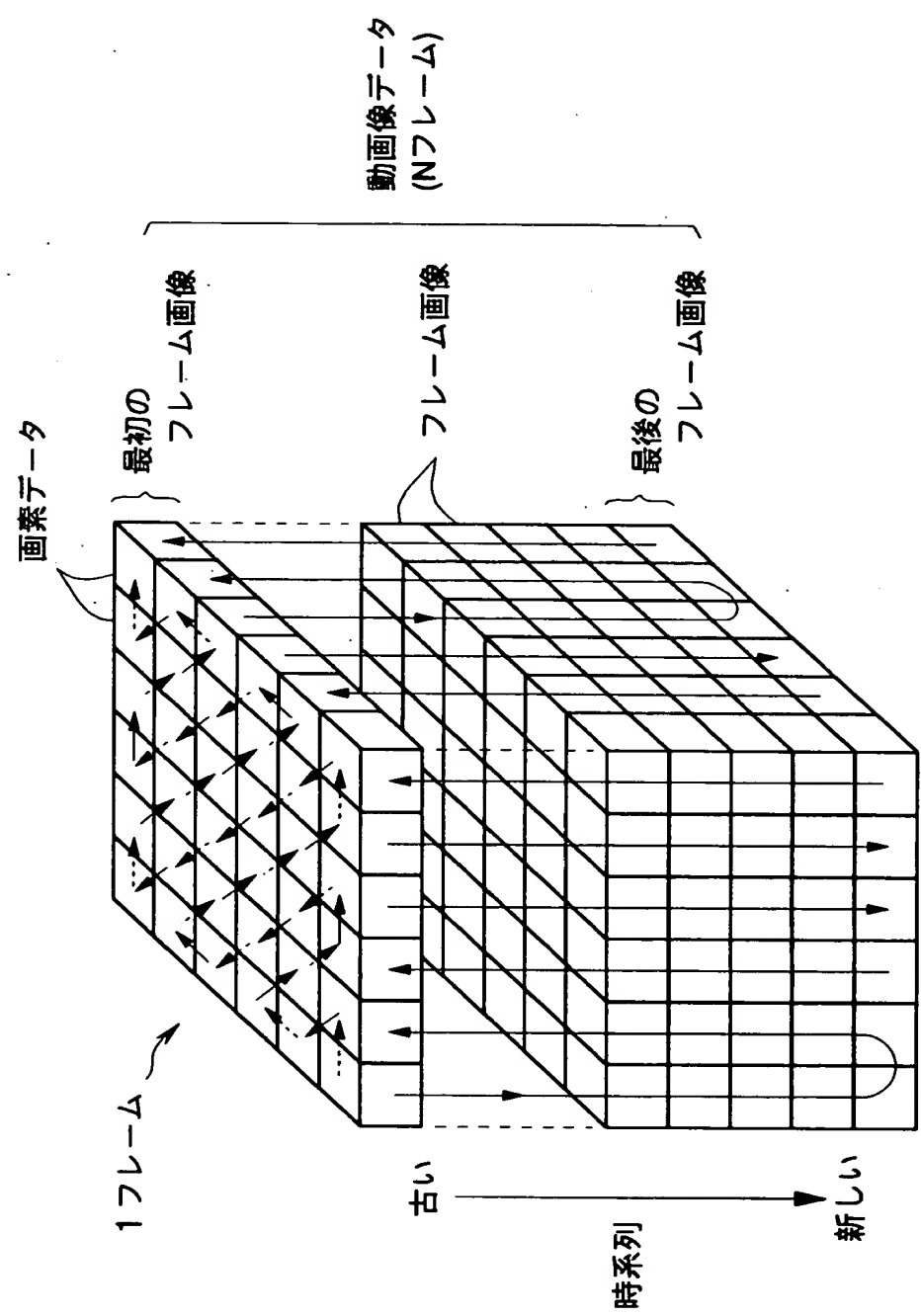
【図 1】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第 1 の実施形態を示すシステム構成図



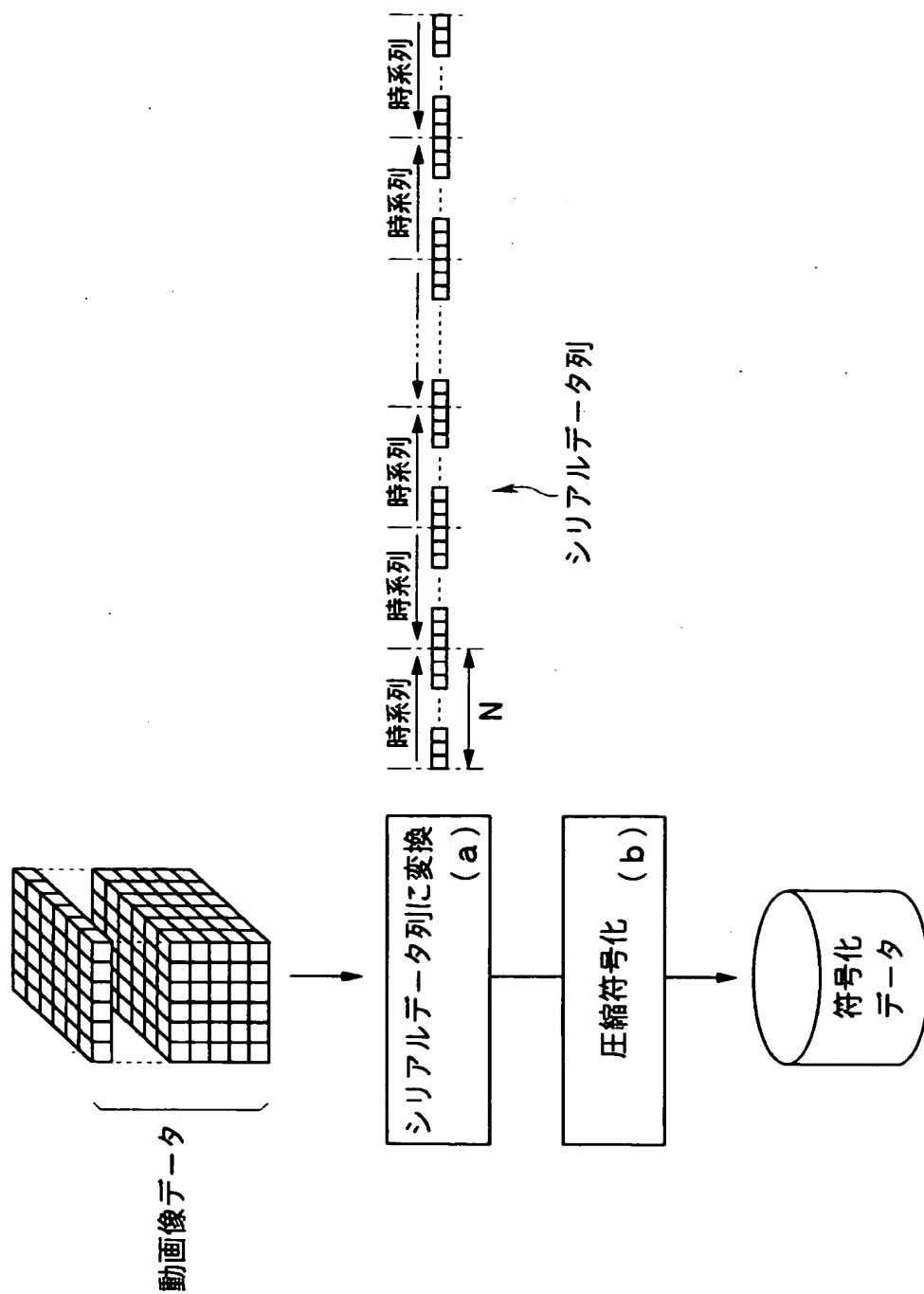
【図 2】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第 1 の実施形態における圧縮符号化の原理を示す説明図



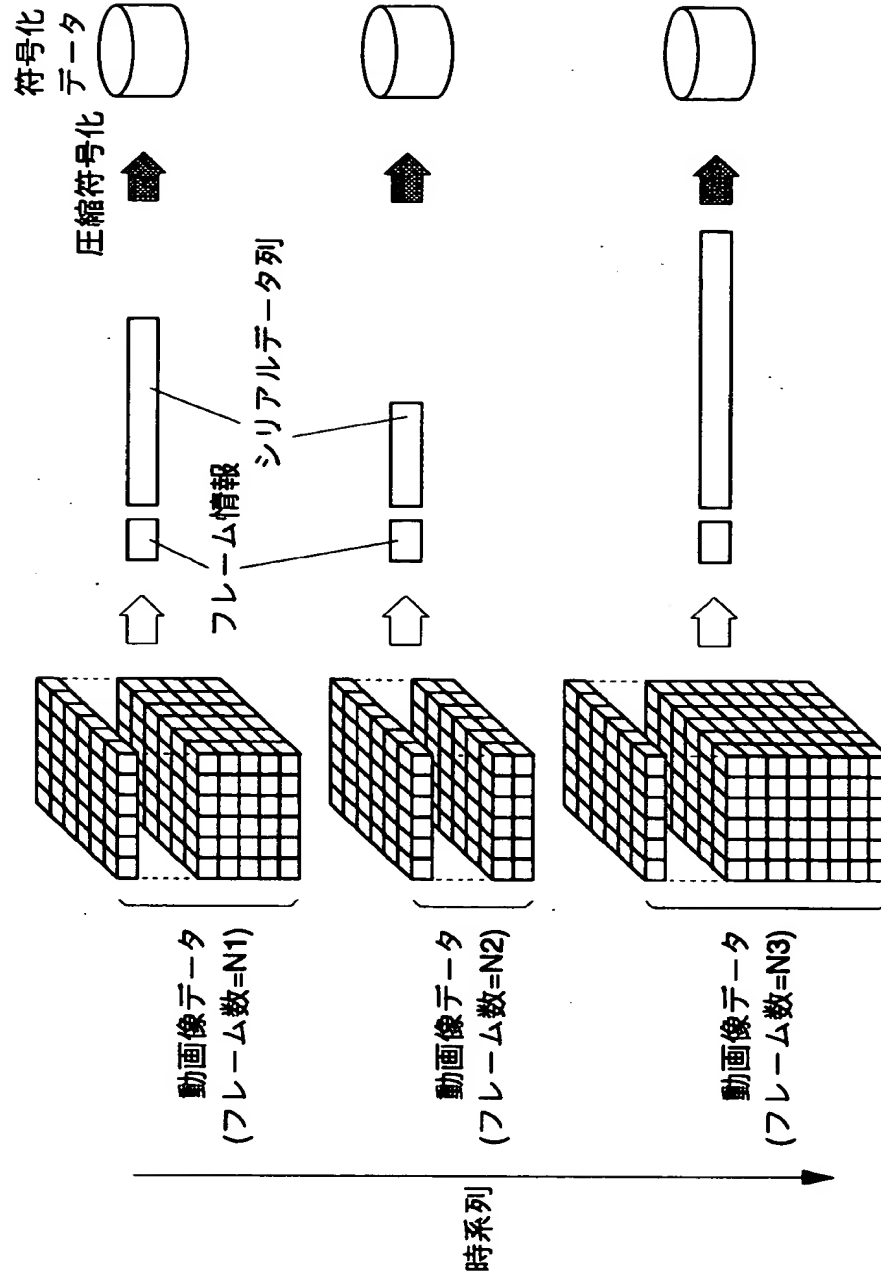
【図 3】

図 2 における動画像データを符号化データに変換するための処理フロー



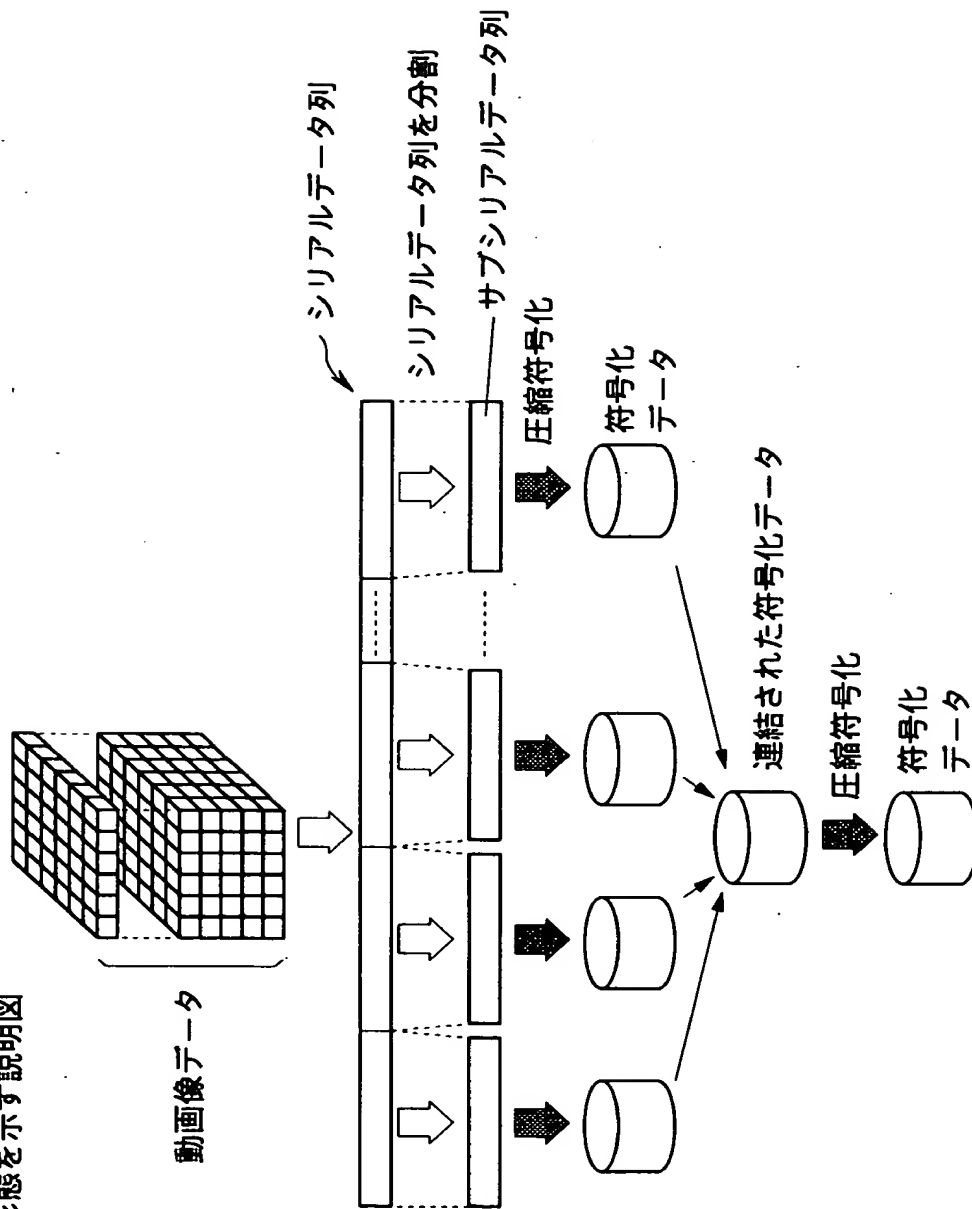
【図 4】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第 2 の実施形態を示す説明図



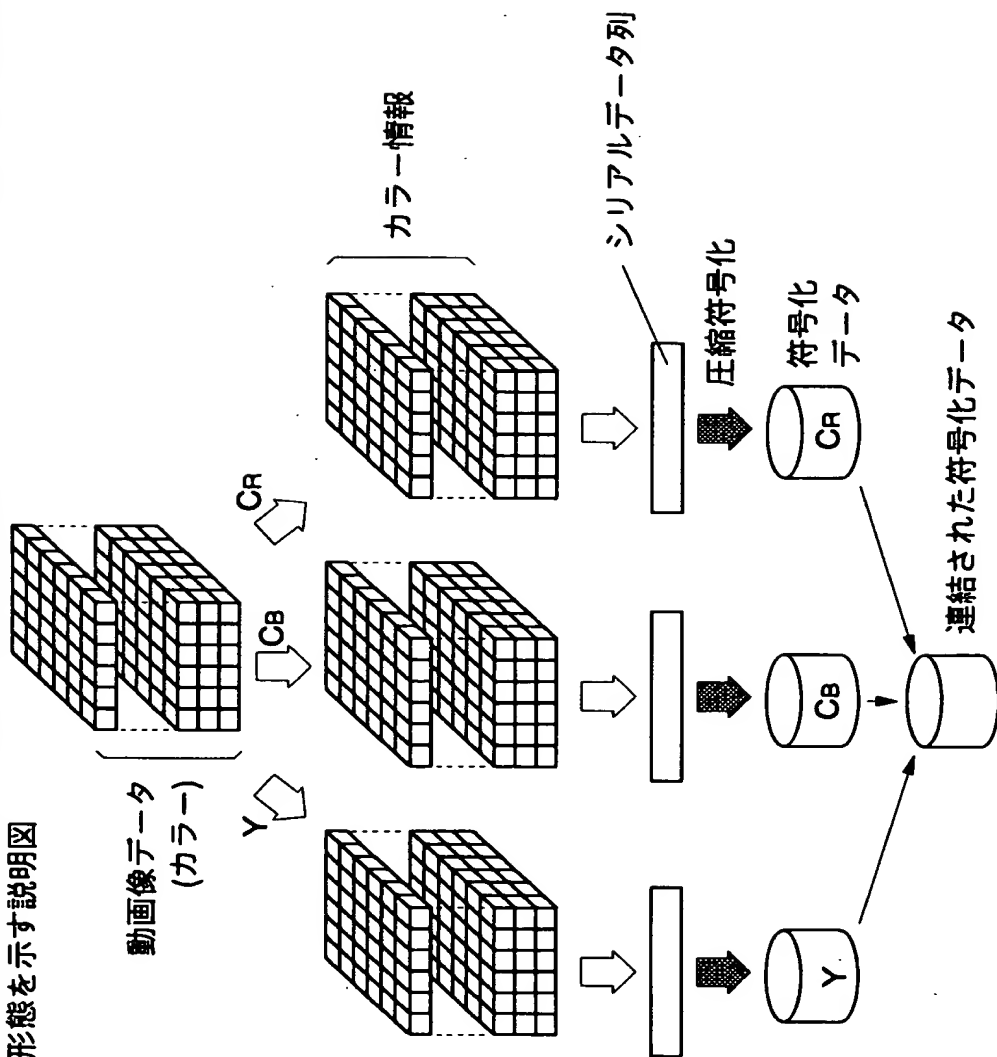
【図 5】

動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第 3 の実施形態を示す説明図



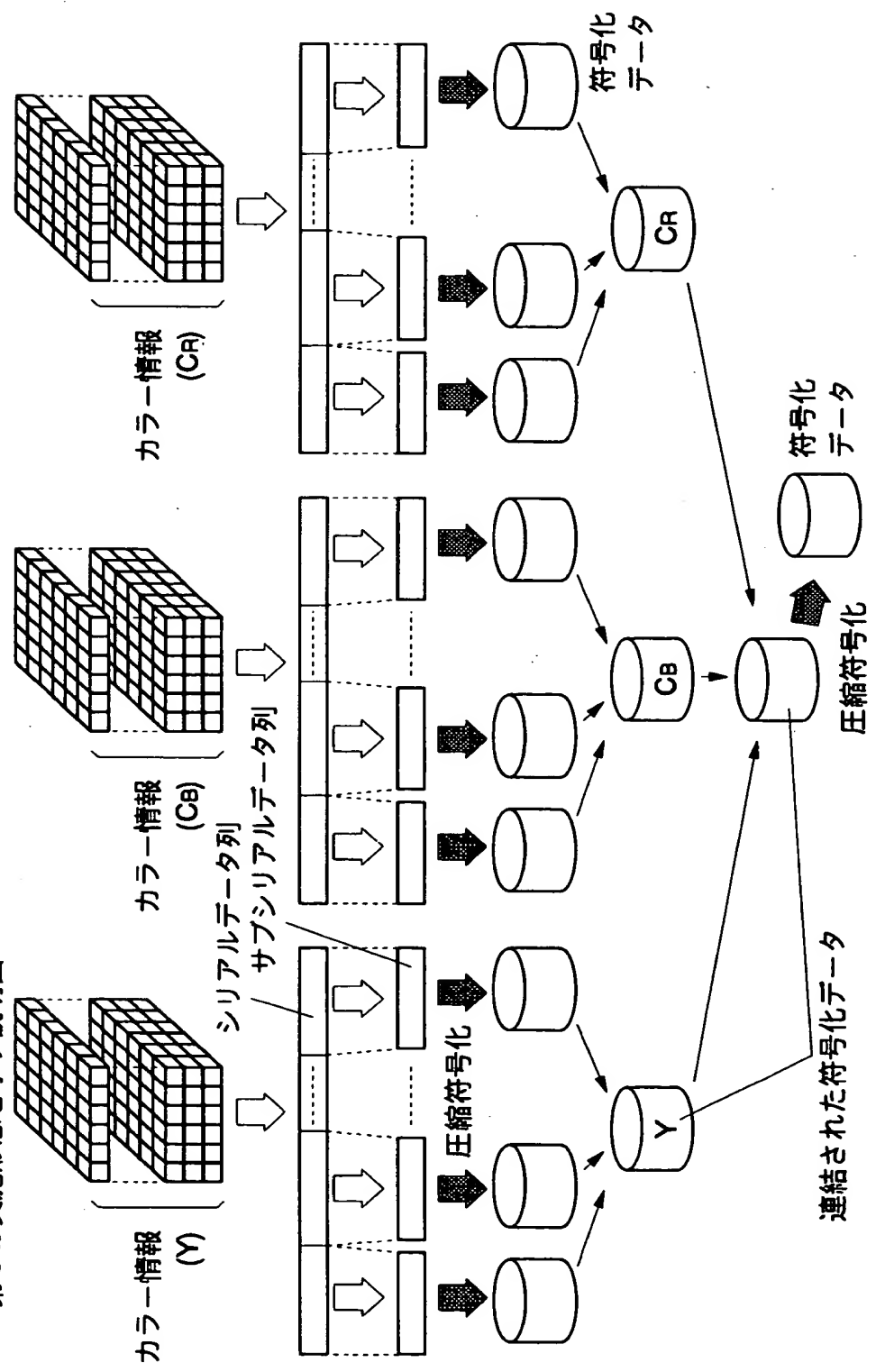
【図 6】

動画符号化方法、動画符号化装置、および動画符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第 4 の実施形態を示す説明図



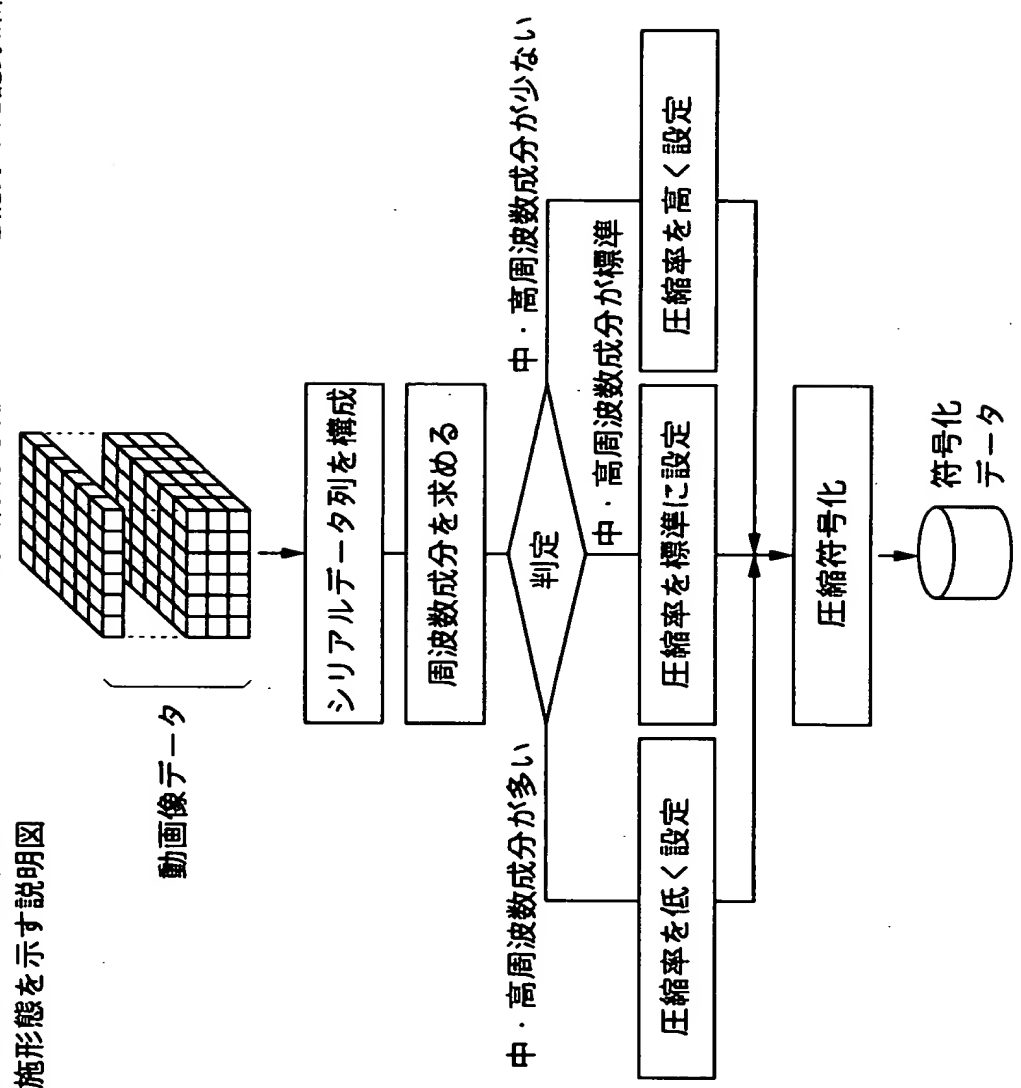
【図 7】

動画符号化方法、動画符号化装置、および動画符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第5の実施形態を示す説明図



【図 8】

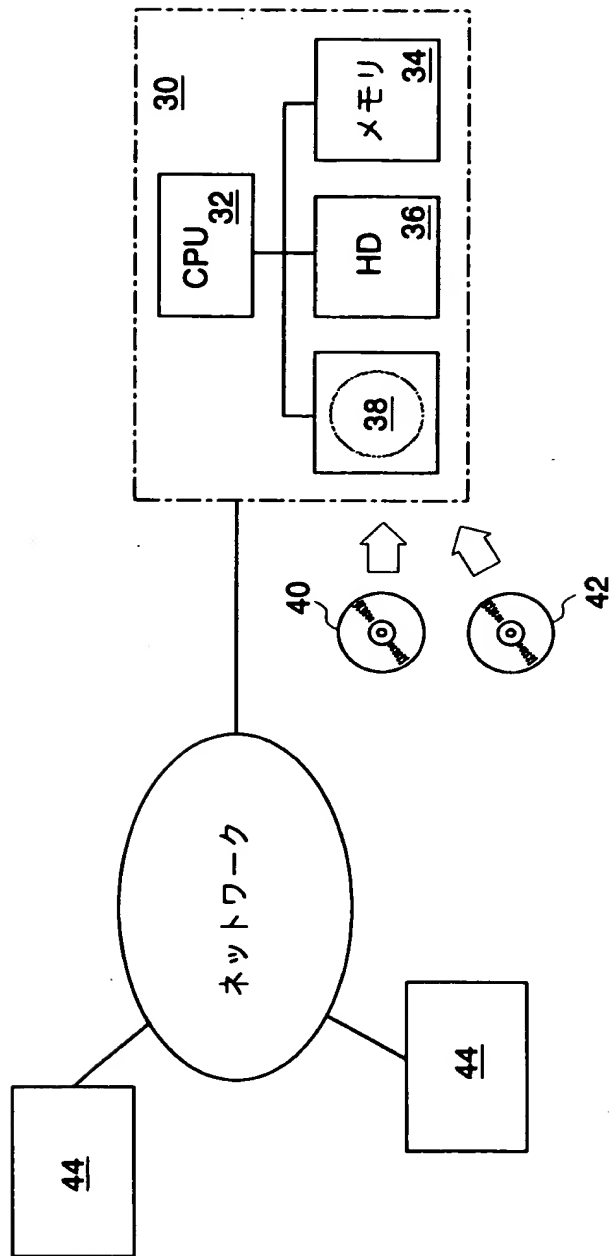
動画像符号化方法、動画像符号化装置、および動画像符号化プログラムを記録した記録媒体の  
第 6 の実施形態を示す説明図





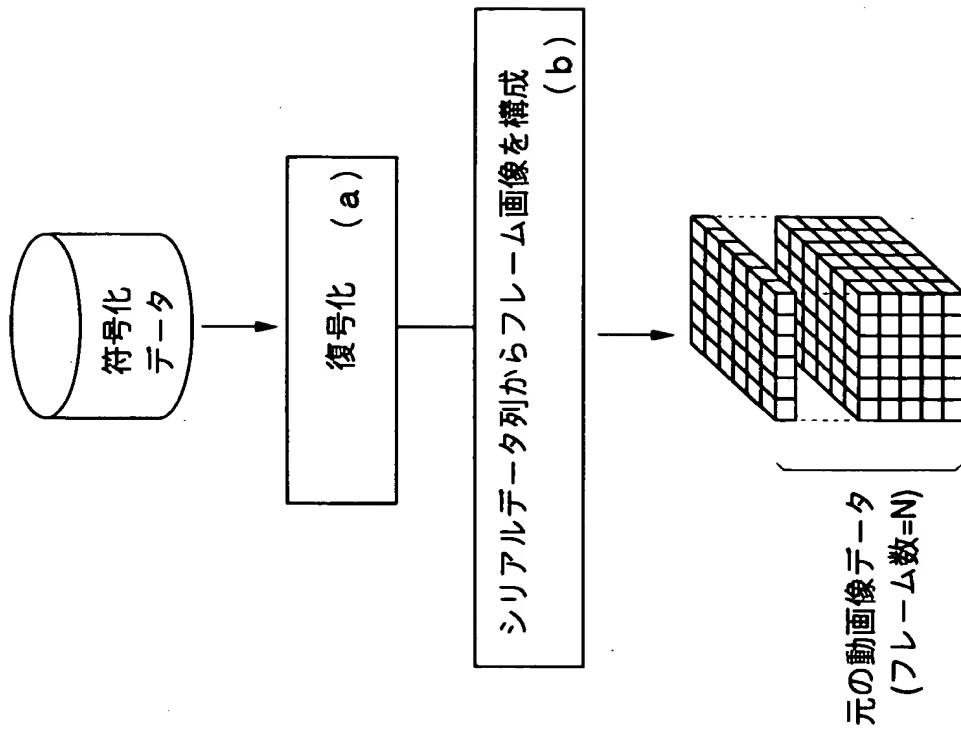
【図 9】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像復号化データを記録した記録媒体の第 1 の実施形態を示すシステム構成図



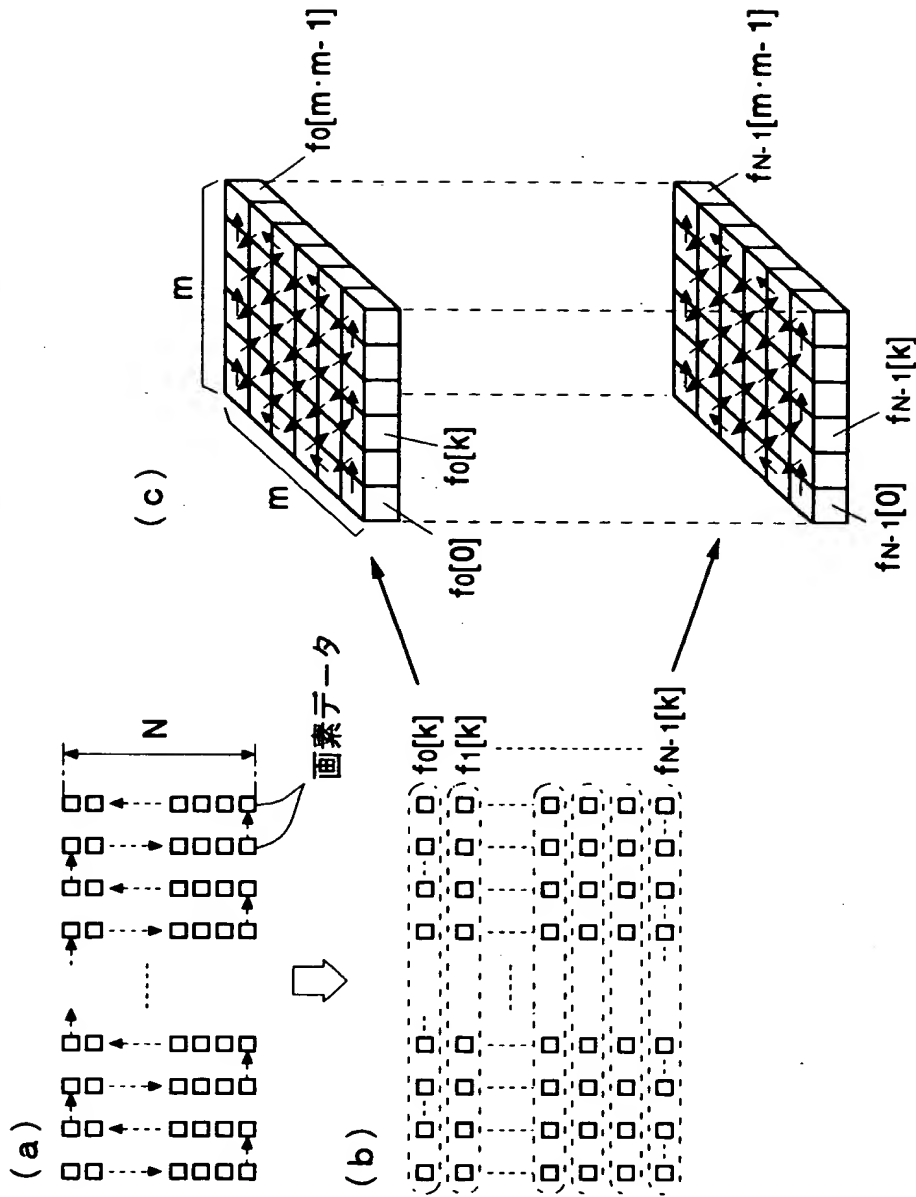
【図 1 0】

動画復号化方法、動画復号化装置、動画復号化プログラムを記録した記録媒体、および  
動画復号化データを記録した記録媒体の第1の実施形態における復号化の処理フロー



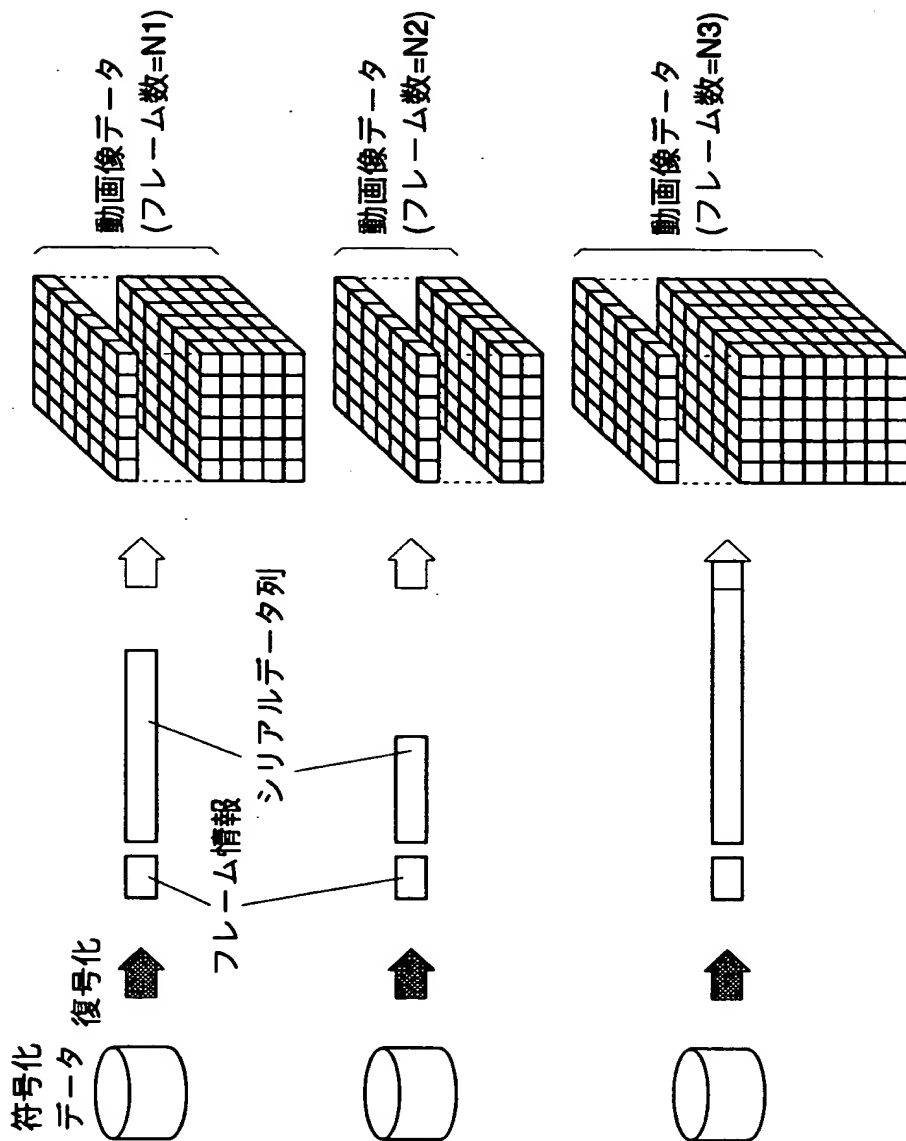
【図 11】

図 10 におけるシリアルデータ列を元の動画像データに変換する原理を示す説明図



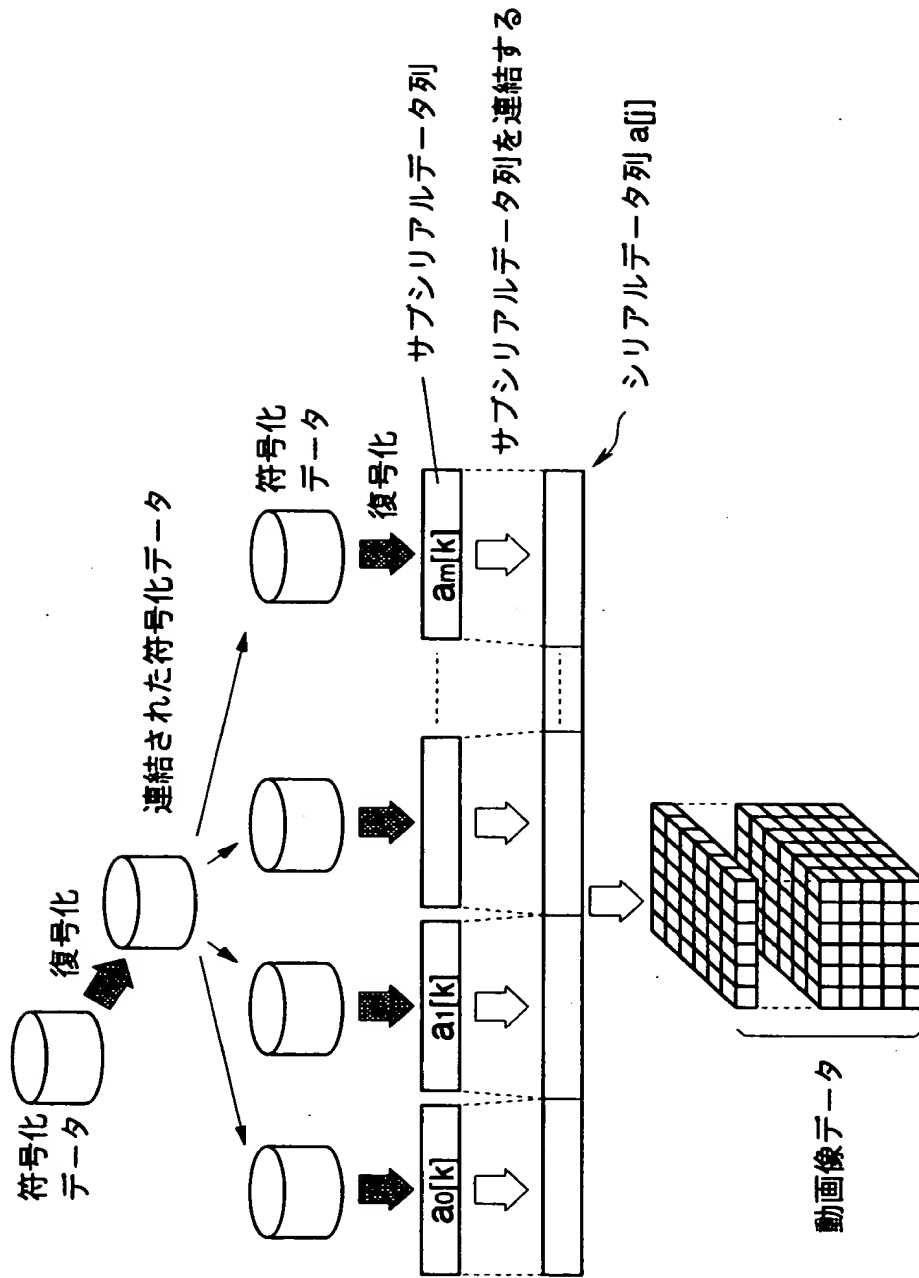
【図 12】

動画復号化方法、動画復号化装置、動画復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画復号化データを記録した記録媒体の第2の実施形態を示す説明図



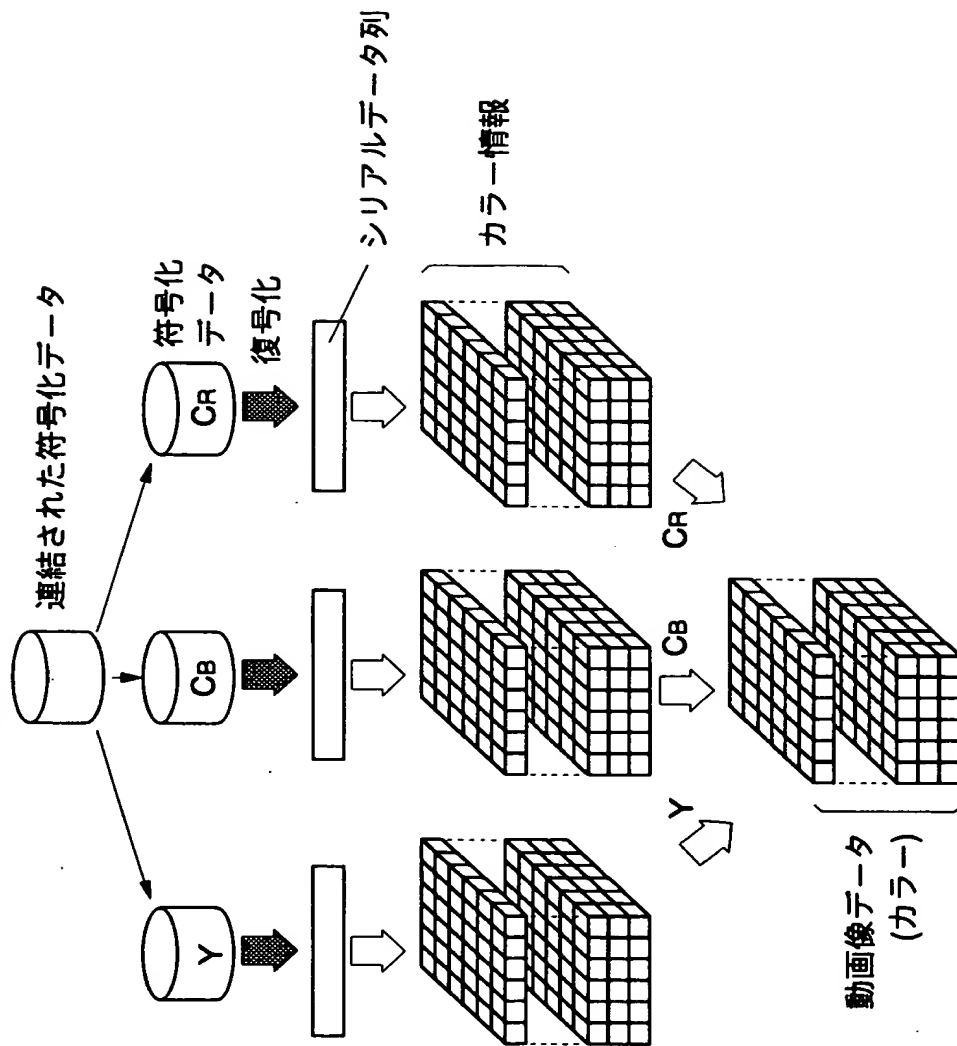
【図 13】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第3の実施形態を示す説明図



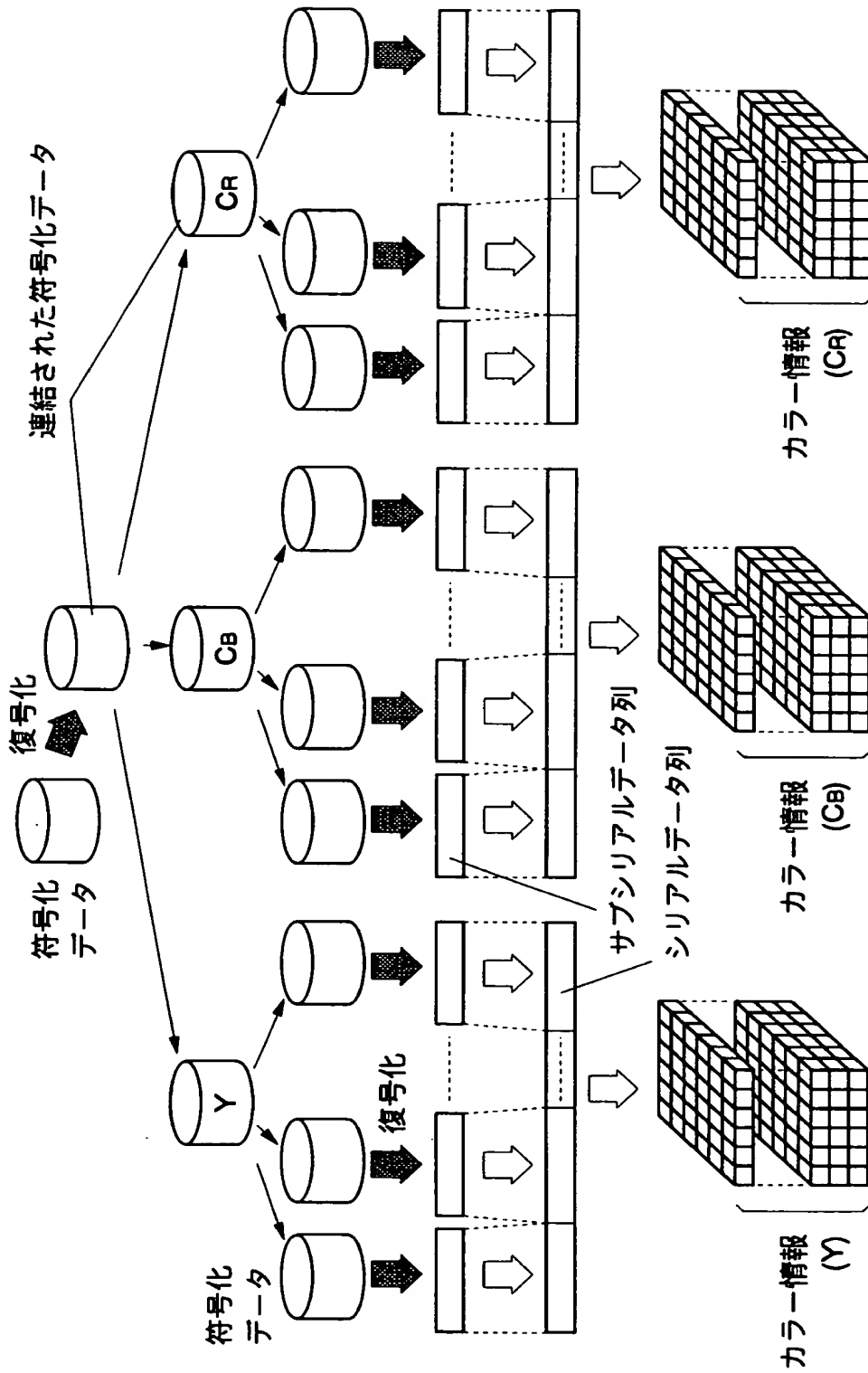
【図 1 4】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第 4 の実施形態を示す説明図



【図 15】

動画像復号化方法、動画像復号化装置、動画像復号化プログラムを記録した記録媒体、および動画像符号化データを記録した記録媒体の第5の実施形態を示す説明図



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 複数のフレーム画像からなる動画像データを高い効率で簡易に符号化・復号化し、電子機器の負荷およびネットワークの負荷を軽減することを目的とする。

【解決手段】 複数のフレーム画像からなる動画像データにおいて、時系列の最初および最後のフレーム画像において、画素データを取り込む位置を隣接する画素データの位置にずらしながら時系列方向および反時系列方向に交互に折り返し、フレーム画像における同じ位置の画素データを時系列順および反時系列順に取り込んでいき、シリアルデータ列を構成し、このシリアルデータ列を符号化する。また、符号化された符号化データをシリアルデータ列に復号化し、このシリアルデータ列から元の動画像データを復元する。符号化の圧縮効率を高くでき、符号化データのデータ量を小さくできる。この結果、電子機器の負荷およびネットワークの負荷を軽減できる。

【選択図】 図 1



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005223]

|          |                       |
|----------|-----------------------|
| 1. 変更年月日 | 1996年 3月26日           |
| [変更理由]   | 住所変更                  |
| 住 所      | 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1号 |
| 氏 名      | 富士通株式会社               |

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

☐ BLACK BORDERS

☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES

☐ FADED TEXT OR DRAWING

☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING

☐ SKEWED/SLANTED IMAGES

☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS

☐ GRAY SCALE DOCUMENTS

☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT

☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY

☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**